

会 議 録

1 会議名

令和元年度第7回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 高土区の課題について（公開）

(2) 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について（公開）

3 開催日時

令和元年12月17日（火）午後6時30分から午後8時まで

4 開催場所

高土地区公民館 2階 中会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、金子和博、小林トシ子、建入一夫
日向こずえ、横川英男（欠席5人）

・事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

・挨拶

【田中主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条1項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

会議録の確認：日向委員

次第3 議題「(1) 高土区の課題について」に入る。前回の協議結果について事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・資料1に基づき説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める

(発言なし)

以上で、次第3 議題「(1) 高土区の課題について」を終了する。

次に、次第3 議題「(2) 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」に入る。事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・資料2に基づき説明

【飯野会長】

今ほど説明があったように、令和2年度地域活動支援事業の事前説明会の日程を決定したいと思う。

【建入委員】

今年度の事前説明会は正副会長のみが出席しており、委員は出席しなかったと記憶しているが今回はどうなるのか。

【飯野会長】

今年度は参加しなくてもよいということではなく、強制力を持たずに開催した。

【建入委員】

今回はどうなるのか。

【田中主事】

協議のうえ、決定してほしい。

【飯野会長】

正副会長以外の委員の出席について意見を求める。

【建入委員】

地域活動支援事業の採択方針について、どのように説明するのか。また、事前説明

会の中でもっとアピールする必要があると思っている。

【田中主事】

例年、事前説明会では高土区の採択方針等の説明を行っており、次年度の採択方針が変更となった場合、その旨を説明する必要がある。また、現委員の任期が4月末で満了となることも踏まえ、これまでの活動経過も説明したいと考えている。

【飯野会長】

改めて、事前説明会への出席について意見を求める。

【横川委員】

内容を見る限りは、正副会長以外の委員の出番はない。参加しなくてもよいということではなく、参加できる委員は参加することとして、今年度と同様に強制力は持たなくて良いと思う。正副会長以外の委員が参加しても、委員の意見等を発言する場面はないと思う。

【金子委員】

横川委員と同意見である。強制力はなくてよいと思う。

【飯野会長】

自分としては、事前説明会への参加者や団体等からどのような意見や質問が出るのかを聞くこともよいと考えている。そのため、可能な限り参加してほしいと思う。では、強制力は持たずに開催として良いか。

(よしの声)

次に、内容について意見を求める。

【横川委員】

毎年、同様の内容で事前説明会を開催しており、出席する人も同じである。「高土ルミネ」のような集客が期待できる事業を新たに考えられる人を呼べるような会にする必要がある。毎年、同じ人が参加して、同じような事業を行っていても意義があるとは言いがたい。事前説明会だけで終わってしまうのか、またはいずれ活躍できるかもしれない人たちを呼べるか、将来的なことを考えられるかで変わると思う。

【青木副会長】

事前説明会の案内は、どういった人や団体に出すのか。

【田中主事】

全体の案内については、2月15日号の広報上越と合わせて協議会だよりを全世帯に

配布する。そのほか、過去3年間で地域活動支援事業を活用した団体に案内を送付している。

【青木副会長】

改選期ということもあり町内会長は忙しいと思うが、各町内会長から参加してもらってはどうか。町内会長には知ってもらったほうが良いと思う。

【田中主事】

団体と同様に町内会長へ案内を送付する。

【飯野会長】

町内会長については、自分の町内会で何かしら考えていなければ案内を出しても参加しないと思う。しかし、町内会の責務としては参加すべきと考えている。たとえ何も考えがなかったとしても、説明を聞くことで、自分の町内では何ができるのかを考えても良いと思う。

次に事前説明会の日程を決定したいと思う。

【横川委員】

日程については強制力がないこともあるため、正副会長で調整してはどうか。

【飯野会長】

では、高士地区振興協議会等の参加団体と調整のうえ、日程を決定して良いか。

(よしの声)

事務局から残りの資料について説明を求める。

【田中主事】

・資料3・4・5、参考資料に基づき説明

【飯野会長】

今ほどの説明も踏まえ、質疑を求める。

【建入委員】

資料1にできそうなものとしてテーマがいくつか記載されている。それが資料3記載の2つのテーマということか。

【田中主事】

地域活動支援事業の提案を促していくとした2つのテーマを資料3に記載している。

【建入委員】

1つ目のテーマの概要に記載の「集える場所の創出」や「交流場所の創出」で自分

がイメージしていたのは、旧高士スポーツ広場の活用である。そのため自分の希望としては、可能であれば何らかのかたちで表したい。例としてでもよいと思う。

【田中主事】

旧高士スポーツ広場の活用を協議のうえ、テーマに追加してもよいと思う。しかし、現在、市が高士地区振興協議会に旧高士スポーツ広場のグラウンドの管理を委託しており、旧高士スポーツ広場でイベントなどの実施が可能か、確認を取れていない。確認が取れていないものを地域協議会として推進することは難しい。そのため記載していないが、協議のうえ、載せるかを決定してほしい。

【建入委員】

背景は理解した。しかし、提案した趣旨として、旧高士スポーツ広場で何かをしたいとの意味合いがあるため、自分としては載せたいと考えている。

【飯野会長】

他に意見を求める。

【金子委員】

改めての確認になるが、テーマを決めるということか。

【田中主事】

そうである。

【金子委員】

資料3に記載されているテーマの概要は、こういうテーマにしたいというものであり、そこからさらに募集テーマを決めるということか。

【田中主事】

テーマの概要として、2つのテーマを記載している。これらは先般の協議会で委員が記載したテーマをそのまま記載している。想定する事業によっては、文言を変更する必要もあるため、募集テーマを改めて協議してほしい。

【金子委員】

記載されているテーマの提案が出るような、募集テーマを決めるとの考えで良いか。それを来年度の募集要項に含めて、募集を行うと考えてよいか。

【田中主事】

そうである。

【飯野会長】

ではテーマを協議していく。

【金子委員】

このままでよいと思っているが、これは抽象的な文言であるため、もっと広くに呼びかけるのであれば、「子育て世代が集えるグループ活動」や「人を呼べるような新たなまつり」といった表現もよいと思う。それであれば、色々な祭りやグループ活動の提案があっても問題ない。

【飯野会長】

今ほど「子育て世代が集えるグループ活動」との意見が出た。

【金子委員】

そうすれば色々なグループ活動の提案が出てくると思う。

【青木副会長】

高齢者はどうするのか。

【金子委員】

子育て世代に限定するかが問題となってくる。限定しなければ、範囲が曖昧になってしまうが、「暮らしを楽しむグループ活動」や「人は呼べるような祭り」はどうか。テーマを広くするのであればそういった感じになると思う。

【横川委員】

対象となる人たちを集めて意見を聞くことが正当な道だと思う。子育て世代が集える場所の創出ということであれば、建入委員の発言にもあった旧高士スポーツ広場の活用にも繋がってくると思う。現状の高士区を見ると、ほとんど田んぼだけである。人が集える場所といえば地区公民館だけであるが、創出できるような感じではない。そのため、実際の子育て世代がどのような考えを持っているのかを事前に把握しなければ、何も解決しないように思う。地域協議会の中だけで考えることには限界がある。

【日向委員】

自分は小さな子どもがいるが、近所の家でお茶飲みをしたり、外で子どもが遊んだりして過ごしている。雨が降って中止になるようでは困るため、やはり屋根がないと駄目である。自分が参加しているママ会で地区公民館を利用している。3ヶ月に1回程度ママだけで集まっている。屋根がある場所で、天気によらずに子どもが遊べるのが理想である。しかし、地区公民館の自由広場は鍵がかかっているため、子どもたちが常に遊べるわけではない。2階の会議室や1階は遊べるが、自由広場はうまく使

えていない状況である。地区公民館を利用する場合、屋根もあるため、自由広場も開放して利用できるようになればよいと思う。管轄が違うのか、自由広場が利用できない理由が分からない。そもそも自由広場を借りることはできるのか。

【飯野会長】

以前は子どもの家の関係で利用することができなかったが、今は解放されていると思う。しかし、はっきりしたことは分からない。自由広場を開放することについては、管理人に確認したいと思う。

【横川委員】

今ほどの意見の中で、ママ会が3ヶ月に1回程度集まっているとの話があった。その場を利用して地域協議会で議題にあがっていることを説明し、意見を聞いてはどうか。日向委員から問いかけてもらうことができれば、1番の近道になるように思う。

【田中主事】

現状の採択方針では、子育て世代の活動を促進することが明記されていない。しかし、採択方針に取り入れることで、今後の活動のきっかけに繋がってくることもある。子育て世代の考えを聞いたうえでテーマを設定することも1つの方法だと思うが、どちらを先にやるのかということである。テーマを決めるか、子育て世代の話聞くかのどちらを先に行うか協議してほしい。

【飯野会長】

地域協議会で決定したから、あとはチラシ等で地域住民に周知したから終わりということではない。地域協議会の委員自身が声をかけ、動いてくれるような人に声をかけなければ無駄になってしまう。ただチラシ等を配るだけでは意味がない。

【青木副会長】

本日、婦人会が主催したクリスマス会を行った。その実態はどんなふうに進んでいるのかは分からないが、子どもたちを集めて開催している。それを新たに子育て世代のグループが開催するとなった場合、これまで婦人会が主体となって行ってきたものを完全になくすことはせず、上手く共存できることが理想的だと思う。そのあたりの兼ね合いは難しいため、気を遣って進めていかなければならない。

【飯野会長】

既に活動している団体もあるため上手く共存する必要があると思う。場合によっては、既存で活動しているグループ等に子育て世代のグループが加わってもよいと思う。

本日のクリスマス会の様子が有線放送で流れていたが、子どもだけではなく保護者もいたような感じを受けた。しかし、それがあまり周知されていないとも思った。ただ、先ほどの意見にもあったように、高齢者の考えと子育て世代の考えはどうしても差が出てしまう。体力的な問題だけではなく、考え方や食の好み等の様々な部分に違いが出てしまう。それは仕方がないことであり、埋めることはできない。やはり一緒に活動するのか、部分的に切り離してやるのが問題になると思う。だが、とりあえずはテーマとして問いかけはしなければならないと思っている。

【田中主事】

今回、募集のテーマや想定する提案を地域協議会として協議する理由としては、地域協議会として提案してほしい事業のイメージが固まっていなければ、提案者が募集テーマに該当するとして提案したものが認められずに不採択となってしまう場合がある。その場合、採択方針に反映しても無意味になってしまう。まずは地域協議会として、どういった活動を望んでいるのかをはっきりさせることが必要になる。まずは募集テーマについて、どんな活動が地域に必要なかを明確にし、どんなテーマにするかを協議してほしい。ママ会の活動と婦人会のクリスマスパーティーの話があったが、テーマを「子育て世代が集える」とした場合、対象が子育て世代に限られてしまうため、婦人会のクリスマスパーティーはテーマに合致しないことになる。

【小林委員】

今回のクリスマスパーティーは婦人会のみ主催である。婦人会の活動として、子どもたちと一緒にケーキを作ったりして、これまでもずっと同じように行ってきた。ママ会で行う活動とは全く別物だと思う。

【本間センター長】

婦人会のクリスマスパーティーの資金はどこから出ているのか。

【小林委員】

幹部の人たちが行っているため詳細は分からない。自分たちは町内会から出た役員であるため、幹部の中には入っていない。

【飯野会長】

資金については、バザーの売上金や古紙回収等から捻出していると思われる。また、婦人会の会費の中からも出ているかもしれない。

【横川委員】

当初のテーマは、パパママグループ活動であるため、婦人会のクリスマスパーティーを含める必要はないと思う。パパママグループにどのような事業をしてほしいかの一本に絞って考えれば、そんなに難しく考える必要はないと思う。

【飯野会長】

例えば、パパママグループと婦人会のクリスマスパーティーが同日になるかもしれない。その時は一緒にやればよいと思う。現在、クリスマスパーティーや小正月の集いを婦人会で開催しているため、同じようなことをやることになった際に、グループ同士で話し合っって一本化するのか、または別々にやるのかを決めればよいと思う。最初から組み込んで考えると難しくなってしまう。

【横川委員】

それは、今後の成り行きに任せるほかない。

【飯野会長】

例えば、クリスマスパーティーはパパママ会主催、小正月は婦人会主催としてもよいと思う。

【横川委員】

お互いの話し合い次第である。そうなると、募集テーマではある程度限られてくる。「パパママ集まれ」といったキャッチフレーズを掲げ、どういった事業を求めていくのかを考えてはどうか。テーマはどんなものでもよいのかもしれない。

【飯野会長】

「みんなで子どもと遊ぼう」でもよいと思う。

【建入委員】

グループ活動と定義するとお茶飲み会やサークル活動等に限られてしまうように思う。しつこいようだが、旧高士中学校跡地の活用から離れてしまうようにも思う。

【横川委員】

グループ活動に名称をつける必要もないと思う。キャッチフレーズとするならば、「子育て世代集まれ」や「子育てを楽しもう」でもよいと思う。

【建入委員】

掛け声として「集まれ！子育て世代」でもよいと思う。

【田中主事】

採択方針は取組を促進するものであるため、もう少し具体的にする必要はある。

「集まれ！子育て世代」だけでは何を伝えたいのか分からない。今ほどの意見をキャッチフレーズとして掲げて、その後に内容を記載してはどうか。4月1日に発行する協議会だよりも募集要項を掲載するが、高土区の採択方針として「集まれ！子育て世代」だけを記載することになる。

【飯野会長】

キャッチフレーズの下に記載する文言によって、提案ごとに内容は変わると思う。

【田中主事】

資料の採択方針案では、具体的な活動例が入ることを想定している。

【飯野会長】

現役の子育て世代としてはどのように考えるか。具体的な活動例を入れてしまうと、必ず実施しなければいけないように感じてしまう気がする。

【日向委員】

活動例は入れなくてよいと思う。

【飯野会長】

集まって自由に四季折々で何かを行うイメージでよいと思う。その中でクリスマスや小正月、スキーツアーやキャンプを行えばよい。こちらで提示しないほうがよいと思う。

【建入委員】

具体的にはせず、「応援します」程度に留めたほうがよいと思う。

【横川委員】

「子育て世代の応援」とした中で、具体的にどのような企画ができるのかを子育て世代の人たちと話し合い、進めていけばよい。

【建入委員】

そういった提案がたくさん出てくるように考えればよい。

【飯野会長】

集まって何をやるかは自分たち自身で決めるということである。地域協議会として、当然相談には乗る。相談にのる中で、あらゆる事例を交えて話をすればよい。

では、テーマを「集まれ！子育て世代 ～子育て世代を応援します～」としてよいのか。

(よしの声)

【飯野会長】

次に優遇措置であるが、優遇措置は加点が付くということか。

【田中主事】

そうである。

【飯野会長】

今決めたほうがよいか。

【田中主事】

次回の地域協議会で次年度の採択方針を協議するため、その際でもよい。

【飯野会長】

具体的に言えば、優遇措置で点数を上げることになる。

【横川委員】

優遇措置とは、加点することが1番よいのか。

【田中主事】

どれだけ本気で応援しているのかが分かりやすいということで加点措置を想定している。特別感をアピールするのであれば、加点以外の方法でもよいと思う。

【建入委員】

地域協議会の特別優先課題ということか。

【田中主事】

そうである。特別優先のため加点されるということである。それをルールとして設定し、地域住民に周知するかということである。

【飯野会長】

「優遇措置があるため加点する」とは記載しないほうがよいと思う。

【横川委員】

「優先的に採択する」としてはどうか。

【飯野会長】

「優遇します」だけではどうか。

【田中主事】

何を優遇するのが分からない。

【飯野会長】

「採択を優遇する」としてしまうと、なんでも採択されることになってしまう。そ

れは問題がある。気持ち的に「優遇する」ということである。

次に「ふるさと高士まつりに代わる祭り」について協議する。資料を見る限りでは、ふるさと高士まつりの内容を変えるのか、または別の祭りを考えるのかと2つの方法があるようにも読み取れる。

【横川委員】

「代わる」と記載されてはいるが、「新しい祭りを取り入れる」との意味合いで捉えればよいと思う。ふるさと高士まつりは夏、高士ルミネは冬の開催である。そのため春か秋に開催できることを考えてはどうか。ふるさと高士まつりは既に定着しているため、やめてしまうわけにはいかない。ただし、ふるさと高士まつりが本当の祭りなのかと言われると、飯田町内で行っている祭りとは違うような気がする。

【青木副会長】

今までの高士まつりに対する反省として、余りにもたくさんのことをやり過ぎているように思う。楽しむという考え方よりも、プログラムをいかに消化するのかとなってしまっている。運動会にしても、あれだけの人数が集まると分刻みのプログラムになってしまっており、色々な世代の交流といった雰囲気ではなくなっている。せめて2つから3つ程度のプログラムで、例えばグランドゴルフ等世代を超えてみんなのできることを考えてはどうか。やり方を考えていったほうがよいと思っている。

【飯野会長】

ふるさと高士まつりは、今までの延長という感じがする。最近はやうやく、子どもたちが参加できるような催し等もあるが、以前はどちらかという大人祭りという感じであった。そのため子どもが入りにくい祭りであった。それと同時に、今ほどの青木副会長の意見にもあったように、何が何でも体育的な部分、芸能的な部分で、内容が組まれている。老人クラブや体育協会が行っている内容をやめ、全て芸能だけで開催するといったように内容を変える必要もあるかもしれない。今の内容では、スケジュールに追われており、落ち着かない印象を受ける。しかし、急に内容を変えていっても、代案がないため、どう変えてよいのか分からないが、変えなければならないことは確かだと思う。また、ふるさと高士まつりは、高士地区の住民だけの祭りである。他区の人にまで声掛けをして集客する祭りではないことがこれまでは前提にあった。例えば、春祭りや秋祭りを行うとなった場合、他地区の住民からも参加してもらえるような祭りを考えなければ何も変わらない。以前話したが、小学校の子どもた

ちとの交流会の中で、子どもたちから春か秋に祭りをしたいとの意見があった。それも踏まえ、既存の2つの祭り以外に何かを取り入れたほうがよいと思っている。

【日向委員】

過去に、高士の未来づくり懇談会で高士を盛り上げるためには何がよいかを聞いたことがある。その際、ふるさと高士まつりはおとなしい祭りのため、継続するのであればもう少し盛り上げる方法を地域全体で考えたいとの意見があった。昔はお神輿が回る町内もあったと聞いている。自分としては飯田町内の祭りがとても賑やかであり、自分の町内はおとなしい祭りのため、そういうところを取り入れたいなと思っていた。高士区の地域住民が1番揃うのが運動会らしい。それは誰もが言っている。春は運動会、冬は高士ルミネ、夏はふるさと高士まつりがあるため、秋のイベントがないと自分は感じている。米作りをしている住民もいるので、収穫祭的なものができればよいと思っている。自分が小学生の頃は収穫祭が行われていた。サツマイモを収穫して茶巾絞りを作ったり、餅つきもあった。それが小学生の頃はとても楽しい行事の1つだった。今は杵と臼を使って餅をつくことがない。

【飯野会長】

自分は小学校の関係にはかなり深く関わっている。現在、田んぼの収穫祭やブドウの収穫祭は、担当している学年単位で行っている。それを全校で行うことはしていない。全校で行うことができればよいが教職員は忙しい。地域住民が学校を会場として、子どもたちや住民が作ったもので秋祭りを開催できれば、学校も賛同してくれるかもしれない。自分たちが子どもの頃と同じような収穫祭はなかなか難しいと思う。小学校の文化祭は昔の学芸会である。各クラスの作品展示は一切ない。

【青木副会長】

学校の教職員はとにかく忙し過ぎて、1番大事なコミュニティスクールがおざなりになっていると思っている。学校には通達するが地域が主体となって行わなければ楽しい学びにはなっていないように思う。先生がやれることは限られていると思う。だからこそ、やる意味があると思う。

【飯野会長】

「ふるさと高士まつりに代わる祭り」ではなく、「ふるさと高士まつり以外の祭り」との考えでよいか。川上善兵衛翁生誕150年の小冊子作製として地域活動支援事業を活用し取り進めているところである。先日、川上善兵衛翁の学習をしている子どもた

ちの写真を小学校へ依頼した際、子どもたちの写真等を掲載する場合、全ての保護者から承諾を得なくてはならないと言われた。結果として、了解が得られた写真を3枚提供してもらった。それと同時に、名札がはっきり分かるものは問題があるため、印刷屋がぼかし等の対応をしてくれた。

【横川委員】

どんな祭りができるのかを考えると、先ほど意見があったように収穫祭を秋に開催できれば良いと思う。他県である芋煮会や大根煮会といった祭りもよいと思う。または、遺跡発掘まつりやブドウ収穫祭でもよい。要するに祭りと付けてしまえば何でも祭りになると思う。食べて遊べるようなことを祭りにしてしまえばよいと思う。高士地区で収穫されている地元野菜には何があるのか。それを調べて祭りにすればよいと思う。外国にはトマトを投げ合う祭りもある。

【金子委員】

祭りについての意見もたくさん出たと思う。要はそういうイベントで人を呼び込めるテーマが必要だと思う。高士ルミネに関しては、大変過ぎて人手も全然足りない状態で運営しているため、今後も続けられるか分からない。人を多くを集めることは、すごく大変なことであるため、大きなことは難しいと思う。たが、人が集まれる祭りができるのであれば、ぜひ開催してほしいと思っている。募集テーマは、「ふるさと高士まつりに代わる祭り」ではなく、「人を呼べる新たな祭り」でよいと思う。

【田中主事】

祭りの対象者は高士区の人か、それとも地区外の人か。

【金子委員】

地区外の人である。

【建入委員】

大根祭りは牧区で行っている。

【飯野会長】

2つ目のテーマとしては「人を呼べるような新しい祭り」をテーマとしてよいか。

(よしの声)

【金子委員】

祭りを実行することは本当に大変である。

【飯野会長】

それでも今は地域活動支援事業という資金がある。昔は自分たちで資金を用意する必要があった。

以上で、次第3 議題「(2) 令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について」を終了する。

次に、次第4「その他」の「次回の開催日」に入る。

【田中主事】

- ・次回の開催日について説明

【飯野会長】

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：1月28日（火） 午後6時30分から
高土地区公民館 中会議室
- ・内容：令和2年度地域活動支援事業 採択方針等の検討について
地域協議会だよりの配付方法について

【田中主事】

今回送付した資料4と資料5は、次回の地域協議会でも使用するため持参願う。

【飯野会長】

- ・会議の閉会を宣言

【青木副会長】

- ・閉会の挨拶

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。